

【生命科学研究科生命科学専攻】

修了認定・学位授与の方針【ディプロマ・ポリシー】

1. 修士課程においては、生命科学に関する幅広い学識と倫理観、国際的視野を備え、高度な専門知識と研究・開発能力で社会に貢献できる人材の養成を目的とし、所定の期間在学し、以下の知識・能力等を身に付け、生命科学専攻で定める所定の単位を修得し、かつ、修士の学位論文の審査並びに最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、修士（理学）の学位を授与する。
 - (1) 生命科学における最先端の知識を体系的に理解し、それに基づいて生命科学諸分野の課題を論理的に把握できる高度な専門知識。
 - (2) 生命科学における高度な技術を習得することで、これを駆使して、生命科学諸分野の課題の解決に貢献できる研究能力。
 - (3) 生命科学における最先端の知識、高度な技術及び倫理観と、他分野の知見を融合し、広い視野を持って自ら課題を発見・設定し、解決できる能力。
 - (4) 科学文化の啓発及び普及に貢献するように、国内外に広く研究成果を発信できるプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力。
2. 博士後期課程においては、従来の学術水準に新しい知見を加え、文化の進展に寄与するとともに、自立した研究活動を行うことのできる創造性豊かな優れた研究・開発能力と高い倫理観を備え、国内外の研究・教育機関の中核を担うことのできる人材の養成を目的とし、所定の期間在学し、以下の知識・能力等を身に付け、生命科学専攻で定める所定の単位を修得し、かつ、博士の学位論文の審査、試験、学力確認のための試問に合格した学生に対して修了を認定し、博士（理学）の学位を授与する。
 - (1) 生命科学及び他分野における最先端の知識を包括的に理解し、それに基づいて生命科学諸分野の課題を自立的に解決できる極めて高度な専門知識。
 - (2) 生命科学における極めて高度な専門技術及び倫理観を有し、自立した研究者として、専門領域のみならず他分野の研究者や技術者とも連携し、生命科学関連諸分野の課題の解決に貢献できる研究能力。
 - (3) 生命科学及び他分野における最先端の知識、並びに生命科学における極めて高度な専門技術等により、柔軟な思考と深い洞察に基づいて、独創的に生命科学関連諸分野の課題に対する解決法を自ら立案できる能力。
 - (4) 国際的な視野を持って科学文化及び科学技術の新たな発展に貢献するように、英語により研究成果を海外に広く発信できる高度なプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力。

教育課程編成・実施の方針【カリキュラム・ポリシー】

1. 修士課程においては、学士課程で養った教養、基礎学力、専門知識を基礎として、さらに「専門科目」「一般教養科目」「研究指導」により、生命科学に関する幅広い学識と倫理観、国際的視野を備え、高度な専門知識と研究開発能力で社会に貢献できる人材を育成するための教育課程を編成する。
 - (1) 「専門科目」では、高度な専門知識を身に付けるため、専門分野ごとに特論を配置するとともに、生命科学諸分野の課題を論理的に把握できるよう、分野共通の講義、演習を配置し、最先端の知識を体系的に理解する教育を行う。
 - (2) 「一般教養科目」では、専門科目で身に付けた高度な専門知識を社会に役立てるために、幅広くかつ深い学識を涵養する授業科目、コミュニケーション能力・倫理観・国際性等を養う授業科目を配置し、専門分野に偏らない広い視野を養う教育を行う。
 - (3) 研究指導の過程では、自身の研究活動や指導教員等研究者との議論により高度な技術を習得し、研究開発能力を高めるとともに、「専門科目」、「一般教養科目」で身に付けた知識・知見及び倫理観を融合し、広い視野を持って課題を発見・設定し、解決できる能力を養う。また、演習における研究発表・討議及び学会等での発表を通して、自身の研究成果を国内外で正確かつ効果的に表現する能力を養い、国際的な視野を持って科学文化の啓発及び普及に貢献できる教育を行う。
2. 博士後期課程においては、修士課程で養った高度な専門知識や研究開発能力を基礎として、さらに、「研究指導」「一般教養科目」により、従来の学術水準に新しい知見を加え、文化の進展に寄与するとともに、自立した研究活動を行うことのできる創造性豊かな優れた研究開発能力を備え、国内外の研究・教育機関の中核を担うことのできる人材を育成するための教育課程を編成する。
 - (1) 研究指導の過程では、指導教員等研究者との議論を深め、極めて高度な専門技術により、自立した研究者として、専門分野に加え他分野の研究者や技術者と連携し、研究開発能力を高めるとともに、他分野の先端知識も取り込み、柔軟な思考と深い洞察、高い倫理観に基づいて、独創的に課題に対する解決法を立案できる能力を養う。また、演習における英語での高度な研究発表・討議及び学会等での発表を通して、自身の研究成果を国内外で正確かつ効果的に表現する能力、国際的コミュニケーション能力を養い、国際的な視野を持って科学文化及び科学技術の新たな発展に貢献できる教育を行う。
 - (2) 「一般教養科目」では、自立した研究者又は高度職業人として社会に役立つ研究開発を遂行していくために必要な深い学識と汎用的能力を涵養する授業科目を配置する。

入学者受入れの方針【アドミッション・ポリシー】

1. 修士課程においては、学士課程で修得した基礎学力と幅広い教養をもとに、生命体の分子機構の解明を志し、自ら専門分野の課題を発見して解決する研究意欲のある人、生命科学諸分野の研究に必要な高度な専門知識と研究・開発能力の修得を目指す人、主体的に多様な人々と協働して研究を行う意欲のある人。
 2. 博士後期課程においては、修士課程までに修得した専門知識と研究・開発能力をもとに、自立して生命科学諸分野の独創的研究を行う意欲のある人、さらに、他分野との融合による科学の発展をめざし、科学文化の進展に貢献する意欲のある人。
 3. 専門知識や教養をもとに、社会において国際的な視野を持って活躍しようとする意欲のある人。
- を多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

（一般入学試験）

修士課程においては、生命科学（分子細胞生物学、免疫学、遺伝学、生化学）の基礎知識と考察力及び基礎的な英訳・英作文・英文読解力を持ち、自ら研究を行う意欲のある人を、書類審査、筆記試験、面接等により選抜する。博士後期課程においては、生命科学の高度な専門的知識や研究・開発能力を基礎として、独創的な研究を行う意欲のある人を、書類審査、口頭試問（専門科目、英語、修士論文について）等により選抜する。

（推薦入学試験）

修士課程において、生命科学（分子細胞生物学、免疫学、遺伝学、生化学）の基礎知識と考察力及び基礎的な英訳・英作文・英文読解力を持ち、自ら研究を行う意欲のある人を、書類審査、面接等により選抜する。

（社会人特別選抜）

博士後期課程において、研究機関又は企業等で得た経験等を基に、独創的な研究を行う意欲のある人を、書類審査、口頭試問等により選抜する。

（外国人留学生入学試験）

修士課程においては、海外の大学で身に付けた生命科学（分子細胞生物学、免疫学、遺伝学、生化学）の基礎知識と考察力及び英語力等を持ち、自ら研究を行う意欲のある人を、書類審査、小論文、口頭試問等により選抜する。博士後期課程においては、海外の大学院修士課程、あるいはそれに相当する教育研究機関において、生命科学の高度な専門的知識や研究・開発能力を身につけ、かつ独創的な研究を行う意欲のある人を、書類審査、口頭試問（専門科目、英語、修士論文について）等により選抜する。